

双松会会報

第34号「双松会」通巻38号「松高北高同窓会報」通巻38号

発行 松江市奥谷町164番地
島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL: 0852-21-4888
FAX: 0852-21-4977
印刷 株式会社島根県農協印刷 TEL: 0852-21-3476



青春グラフィティ Vol. 11

高校1期

(昭和25年卒)

隠居広場 — 同窓会のかたち —

昨年の秋、胃癌の手術で入っていた豊中市市民病院の病室に、同窓の荏田運三郎、伊藤雅義、林原信光の三君が見舞ってくれた。

私の前に差し出された一枚の写真、十日ほど前に松江で開かれた松高一期同窓会の集合写真である。

総勢五十余名が雑壇へ並ぶ。八十路をすぎた老人達がズラリ。いずれも言い合わせたように苦虫を噛みつぶしている。しかし、前列真ん中に座った白髪の老人が一人、いささか場違いなほどの派手な笑顔だ。もうこれ以上はない満面の笑みである。ギョーとしてよく見ると、目の前にいる荏田君ではないか。

彼ら三人の話によると、実はわが同窓会、今回をもって、これまでの形の会はやめることにしたという。寄る年波、もっと自由な集まりにしたいということだった。

人生終末期、せっかく同期の縁と絆で続いた同期会が、こんな苦虫噛んだ形で終わっているのだろうか。百萬ドルの笑顔をもつ男も実在しているのだ。かかる救世主を生かさぬ手はないと、無い知恵絞ったのが「隠居広場」であった。

まず手始めは、隠居村の設立だ。村長は荏田運三郎(下挿絵)、村長は「笑いと健康」に幸い同期に



は四人の名医がいる。笑顔の村長、健康の名医、それに永年わが同窓会を支えてきた二人の名誉村民。

しかし、爺さんだけではいかにも色気がないと、二人の美貌人(未亡人)を選出し、数名の村民を選んで隠居村の形が整った。

さて、設立総会(隠居広場)をどこで開く? 北高元校長の松本幹彦名誉村民が手を挙げる。「せつたい母校の北高だ!」

さて、その当日の五月十八日、北高応接室に集った面々は十一名。揃ったところで昼弁当を食べる。そして、新しく私が作詞した「隠居広場の唄」を「王将」の節で大合唱する。

◎隠居広場に一度はおいで

◎隠居話に花が咲く
日頃言えない愚痴の種吐いて笑えば気が楽だ

◎隠居広場に集まるなかのひとさわ目につく

◎美貌人(みぼうじん)

わが婿(かかあ) かいなどよくよく見れば

◎三軒隣りのおかつあんな

◎隠居広場で見初めてからは夢に出てくる家内の顔が今さら浮気は許せない
それでも隠居は夢を見る

すっかり打ち解けた一つのテーブルを囲んでの二時間は、文字通り終始笑いに包まれた。通常の同窓会は同席した連中とだけの交歓に終わるが、このように一つテーブルを囲んだ形式は、一つの話題を一緒に語り



和田 亮介

合う。

当日の話題は主に家庭の、特に女房とのそれが多かった。それぞれの夫婦関係が赤裸々に語られ、我が身に比べて深刻な表情で聴き入る村民も多かったが、その都度、雰囲気明るく笑いに誘ってくれたのが村長の笑顔であり、中島隠居医者の適切なアドバイスであった。

稲田雅子、山本捷子お二人の美貌人の話題は当然だが、今は亡き御主人の思い出話、皆の羨まし気な表情が面白く、「いい奴ほど早く逝く」俗諺の真実を噛みしめていた。

時が経つほどに話は打ち解ける。いかに温和な平野稔君は、家庭内で起きたある事件を話し出した。

「ある日、一匹の野良猫が入ってきた。僕の机の下に潜り込んで糞をしやがったので、両脚をもって振り回していたら、息子が、オヤジ、その猫、硬直してぞ……」

そこをすかさず中島隠居医者が診断した。

「猫の脳震盪!」

負けじと立ち上がったのが、米子から出てきた坂本節夫村民である。毘沙門天のような髭面を振り立てて語る話題は、その髭の効用に始まり、天気予報の表現を変えさせた話、翌年の豊作不作を占う柚の木物語に至って、ついに堪りかねた隣席の夫人からストップがかかった。

「長い!もう止めなさい!」
坂本村民が毛のない頭を掻い

て着席した後の発言は、須田晃生君。憤懣やるかたない表情で口を開いた。
「今かかっている〇〇病院の歯医者には威張りくさって、なっちゃん!歯の状態が悪くて、これからの体調が心配だ。どこかに良い医者はおらんだらか?」
それからしばらくは各自の医者談義が続く。同期の歯科医、松本功君が一番の名医だという結論になった。

終始聞き手に廻っていた名誉村民の清水利美君が、司会役の私にうながされて重い口を開いた。
「僕は、家では家内と笑って喋ることはまずない。それで十分足りているよ。なんでって、半世紀以上苦勞を共にしてきたんだから……。これはいかんかね?」

最後に見せたちよつとはにかなだ彼の笑顔が本当に素敵だったとは、記録を担当してくれた金山富美さんの感想である。
あつという間の二時間が尽きた時、一同の顔にはまだ喋り足りない不満感の一方で、久しぶりに思いのたけを吐き出したという満足感も見られたのである。

そのあと揃って料亭「堀川」へ出かけ、松江の夜を満喫したのであった。



* 隠居広場に関心のある方は一大会HPの「はなしの広場」
「隠居広場気楽話」
(<http://www9.plala.or.jp/issoukai/innkyo-yoko.pdf>)
をご覧ください。



ごあいさつ

会長

庄司

肇

双松会の皆様には、ご健勝のこととお慶び申し上げます。去る七月二十日には、本年度の役員会(総会に代わる)を開催し、数々の議案を審議いただきました。出席いただきました役員の皆様には厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は会報発行のため援助金をお願いしましたところ、会員の方々から約四七〇万円のご寄付をいただきました。これから三年間はここから会報発行のための費用を支出させていただきたいと思っております。ありがとうございます。

また、昭和二十五年から昭和五十三年まで西川津校舎で学生時代を過ごした会員の方々がいらっしやいます。現在の赤山台地の校舎に再び移る際、西川津校舎の卒業生の方達の中から校舎の思い出を残したいと、校舎の跡地に記念碑を建てることを希望されました。昭和五十三年、跡地は県立プールとして整備されましたが、その一角に(旧川津校舎のテニスコート附近)に長さ四メートル、高さ二メートルの石碑を設置しました。やがて、この地が松江市の管理下となって現在に至っています。今回、この地が松

江市の公園計画により再整備されることになり、一度は移転を求められましたが、松江市のご好意により新しく整備される公園の一角に残すことが出来ました。ここ数年は仮の場所に置きますが、近くへお出掛けの際には立寄って青春時代の思い出に浸っていただきたいと思っております。平成二十二年に植え替えをしました双松の新生松の一本



ご挨拶

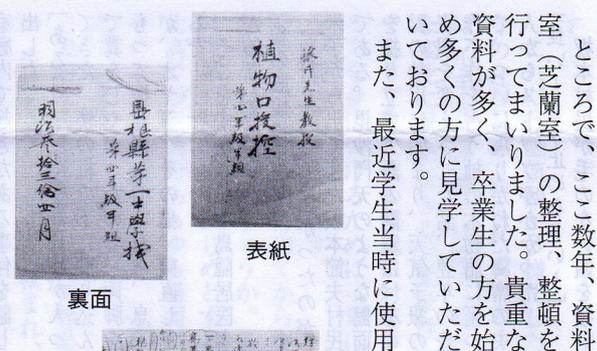
双松会の皆様方には、ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素から母校に對しまして様々なご支援・ご協力を頂き、誠に有り難うございます。

学校では、昨年度はバリアフリー化工事を行いエレベーターの設置なども行いました。本年度は耐震化工事・リフレッシュ工事等を行い、教室も一部使用できないため仮設のプレハブでも授業を行ったりしている状況ですが、今年度中には完了する予定です。生徒諸君も質実剛健の校訓

が、ここ数年の猛暑と厳寒のため残念ながら枯れてしまいました。校地の周辺に残して置いた双松の系統を引く松の中から選び出し、再び植えることを役員会で了承していただきました。条件が整いまして、台上に植えることにしています。これからも慎重に管理してまいります。かねがね新生松の保護と育成のため募金をしてはどうかというご意見をいただいていたました。今年度はやむをえない事情により断念しましたが、来年度以降にお願いすることになりました。その際にはよろしく願います。

校長 河原 一朗

のもと、文武両道をめざし頑張っています。HPなどでもお知らせしていますが、特に、昨年は、女子弓道部、百人一首の読手、陸上(ハードル)の3つの日本一がありました。本校のような進学者が大半の学校でこういったことは全国的にもほとんどない快挙であり、これもひとえに先輩方が築いてこられた伝統の持つ力であると思っております。県高校総体では男子が総合優勝しましたが、女子は5位で男女総合3位という結果でした。来年度こそは男女総



ところで、ここ数年、資料室(芝蘭室)の整理、整頓を行ってまいりました。貴重な資料が多く、卒業生の方を始め多くの方に見学していただいております。また、最近学生当時に使用した教科書や機関誌、部活動の資料等を多数お寄せいただいております。その中の一部を紹介いたしますと、去年末に明治三十三年頃在籍しておられた卒業生の甥に当る方から、当時の教科書、口授控(当時のノートと思われる)を多数いただきました。読んでみますと、熱心に勉強されていた跡がうかがわれたいへん感心いたしました。今後、貴重な資料をお寄せくださいますようお願いいたします。

合優勝奪還を目指したいと思っております。今年度もたくさんさんの部が夏に九州で行われるインターハイ・全国高等学校総合文化祭等の全国大会に出場し、それぞれ活躍しました。昨年末には東日本大震災被災地の復興支援ボランティアを社会福祉協議会と計画し、宮城県南三陸町において生徒25名と教員でボランティアを行いました。生徒たちは多くのことを学びそして考えてくれています。社会に有為な人材を育てることを大きな目標としている本校としては本年度も他校の生徒とともに夏に出かけました。24年度末の進路状況もほぼ例年通りの結果を残しており、今後とも文武両道の学校であ

り続けたいと思っております。平成25年3月17日(日)には本校において5,000人を超える卒業生を送りだした通信制課程の最後の卒業式及び閉課程式を行い56年の歴史に幕を閉じました。今後は安道高校通信制として新たな歴史を刻むこととなります。当日は多数の卒業生をはじめ多くの方々のご参列を頂き、卒業生会長や生徒代表の胸が熱くなる言葉など素晴らしい思い出に残る式ができましたことを厚くお礼申し上げます。終わりになりましたが、双松会の益々の発展と会員の皆さまのご健勝とご活躍を祈念いたしまして会報発刊のご挨拶といたします。

事務局だより

一、「双松会会報」の発刊に
関わる諸経費援助について
昨年度に本会報の発刊費用
の援助をお願いいたしました
ところ、今年7月末現在で、
一、六八〇名の方々より、四、
六九七、二八〇円のご厚志を
いただきました。芳名録にて
お礼に代えさせていただきます。
誠に有難うございました。

二、西川津校舎跡地の記念碑 の移動について

昭和53年、北高校舎が西川
津から赤山に移転されまし
た。西川津校舎跡地に旧県立
プールが建設されることにな
り、昭和54年7月、西川津校

舎の跡地に記念碑が建てられ
(地図上の○印)、現在に至っ
ています。

現在、該当地が松江市有地
であることから、今年、松江
市より、次の要請がありまし
た。「松江市の整備計画に伴
い、旧県立プールを今年7月
に解体し、跡地を新体育館建
設の工事ヤード及び臨時駐車
場として利用。平成28年に旧
県立プール跡地の多目的広場
整備計画を決定し、翌年、工
事を着工予定。そのため、記
念碑の仮移転が必要。」

松江市と双松会代表者が協
議を行い、次の通り決まりま
した。「今年、記念碑を旧県
立プール敷地内の南東の角
(地図上の●印)に仮移転し、

平成28年に最終移転先を再度
協議し、決定する。」

三、寄付金のお礼

次の方々より寄付金を頂戴
いたしました。厚くお礼申し
上げます。

- 63期より四三四円
- 16期より八〇、〇〇〇円
- 6期より三〇、〇〇〇円
- 34期より一三、六一三円
- 64期より一、一五円
- 13期より一〇〇、〇〇〇円

四、各地区における双松会総 会の日程について

- 東京双松会の総会
平成25年10月19日(土)
於 アルカディア市ヶ谷
- 近畿双松会の総会
平成25年12月8日(日)
於 大阪市中央公会堂
- 広島双松会の総会
平成25年11月9日(土)
於 広島ダイヤモンドホテル
- 米子双松会の総会
平成26年2月中
(詳細は後日)

五、松江北高資料室について

北高敷地内の同窓会館であ
る起雲館に、学校創立以降の
資料が展示されています。さ
らに充実した資料室にするた
めに、資料の提供をして下さ
る方は、ご一報下さい。

北高生の活躍

島根県高等学校 総合体育大会結果報告

5月下旬から6月初旬にか
けて行われた島根県総合体育
大会では、松江北高校は惜し
くも男女総合3位となり、総
合優勝奪還はかないませんで
した。また、男子は4年連続
14度目の優勝を飾りました。
7月下旬から8月上旬に
かけて大分、福岡、佐賀、長
崎で行われた北部九州総体に
出場したチーム・団体を紹介
します。

- 陸上競技部
男子 400m 第5位
3年 菅井 雄生
- 女子 400m 第3位
3年 村上 由佳
- 女子ボート部
ダブルスカル 優 勝
3年 佐々木 優衣
- 2年 柏木 萌花
- シングルスカル 優 勝
3年 稲毛 桃子
- 女子テニス部
シングルス 準優勝
1年 壺倉 花
- 弓道部
男子個人戦 準優勝
3年 吉田 基志
- 男子登山部
優勝 北高男子A

文化部の活躍

8月に長崎で開催された全
国高等学校総合文化祭に出場
した部を紹介します。

- 放送部
放送部門 3年 三島 志織
- 箏曲部
日本音楽部門
- 弦楽同好会
器楽管弦楽部門
- 囲碁・将棋部
囲碁部門
将棋部門
- 百人一首かるた部
小倉百人一首かるた部門

その他の全国大会

○島根県英語弁論大会
金賞 安楽万智子
8月22日に宮崎市で行われ
た全国大会に出場しました。

夏の高校野球大会

7月14日から始まった第95
回全国高等学校野球選手権記
念島根大会では野球部が6年
ぶりにベスト8となりました。

平成24年度 会報編集助成金会計決算書

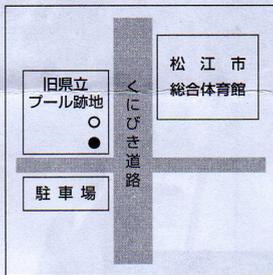
収入総額	6,654,640	円
支出総額	1,500,000	円
残 額	5,154,640	円 …次年度へ繰越

<収 入>

費 目	金 額	備 考
繰 越 金	2,058,343	
援 助 金	4,595,280	平成24年度振込分
雑 収 入	1,017	預金利息
合 計	6,654,640	

<支 出>

費 目	金 額	備 考
本会計へ繰入	1,500,000	平成24年度会報発行補助金として
合 計	1,500,000	





特集
通信制閉課程式



卒業式祝辞
島根県高等学校定時制通信制教育振興会長・
成相 安信 様



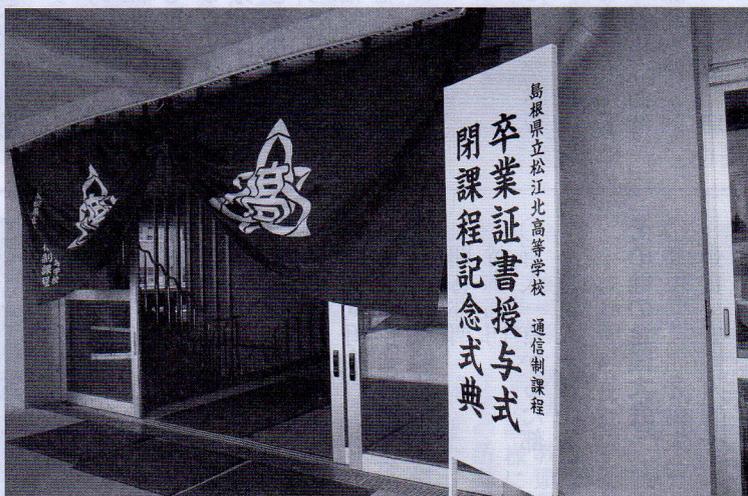
卒業式式辞 河原一朗校長

卒業式

- 1 互礼
- 2 開式の辞
- 3 国歌斉唱
- 4 卒業証書授与
- 5 校長式辞
- 6 来賓祝辞
- 7 来賓紹介、祝詞・祝電披露
- 8 卒業生旅立ちのことば
- 9 校歌斉唱
- 10 閉式の辞
- 11 互礼

閉課程式

- 1 互礼
- 2 開式の辞
- 3 国歌斉唱
- 4 教育委員会閉課程通告
(教育委員長)
- 5 校長式辞
- 6 来賓挨拶
- 7 生徒惜別のことば
- 8 校札返納
- 9 校歌斉唱
- 10 閉式の辞
- 11 互礼



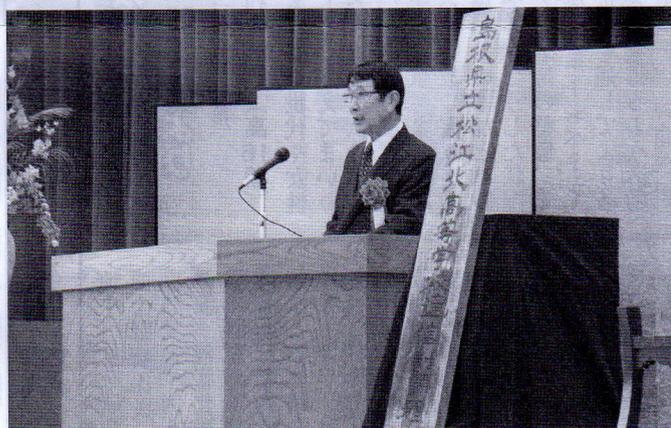
「懐かしい赤山校舎の第一体育館で開催されました」



卒業式 卒業生旅立ちのことば
代表 渡嘉敷紹子様



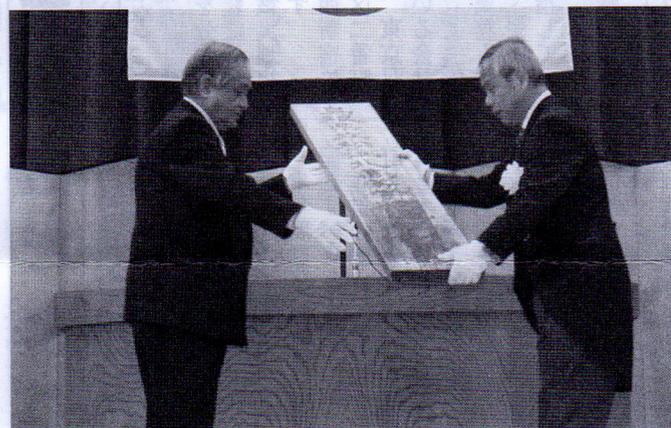
閉課程式 閉課程通告
島根県教育委員長 山本 弘正様



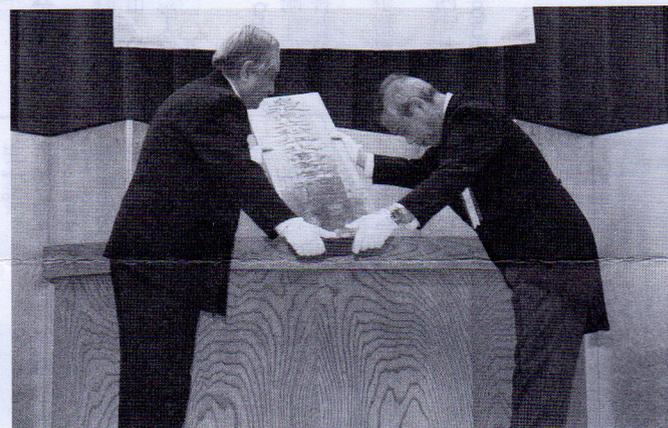
閉課程式 来賓挨拶
通信制双松会会長 野津 裕様



閉課程式 生徒惜別のことば
卒業生代表 川谷由美子様



校札返納 河原校長から山本教育委員長へ



五十八年の歴史の重み

通信制双松会

会長 野津 裕

松江北高に通信制が移設されて五十八年、川津、赤山、宍道と校舎は三転しましたが本年三月、最後の卒業式、閉課程式が赤山校舎で行われた事は感慨深いものでした。

私は昭和三十七年に入学し、五年後に三十一名と共に卒業しましたが、それまでの卒業生総数は一四〇名。しかし時代の流れに対応し在校生も年ごとに増加し、ある者は働きながら、ある者は種々の事情と戦いながら、スクーリング登校や仲間づくり、レポート作成に励み単位修得に務めそれぞれの困難を乗り越えて卒業した総数は五、五五〇名。通信教育だからこそ得られた貴重な経験を生かし、個々人が今日、社会の重要な構成員として活躍していることを思えば喜びに堪えません。その一方で、目的を果さず去った人達がどんなに多かったか、残念ながら忘れることができません。

松江北高通信制は宍道高校と浜田高校に立派に受け継がれ、優れた環境と教育によって益々発展することを期待してやみません。

私達は「通信制双松会」として生まれ変わりました。伝統ある双松会の一員に加えさせていただき、今後共一層のご愛顧とご指導をお願いする次第です。

各期だより

14期(昭和38年卒業)の皆様へ

同窓会の御案内

これを読まれた時には、既に案内状が届いていると思います。あれから半世紀、覚えちようかや！校歌、応援歌、担任の先生、本造りの学舎、六道湖一周、梁山街道、学園祭、フォークダンス、櫓を解体しファイヤーストーム、等々若かった頃が今でも思い出せます。同窓会の一回目は確か「むらくも会館」にて昭和53年に行つたと思います。卒業20周年の時、記念品として竹の櫓の替りに組立式の足場パイプを寄贈しました。さて、卒業50年の節目を迎え沢山の発起人の皆様と共に会える日を楽しみにして下さい。

記

①日時 10月16日(水)18時
②場所 大根島(由志園)
尚不祥な事は長廻和助(0901777616846)まで連絡下さい。

50年前の私、誰でしょう？



東京双松会

地区だより

東京双松会 事務局長

中村 康一(高16期)

このところ 若い世代や女性の登録も少しずつ増えてまいりました。また、近年、秋の総会には毎回一〇〇名強の出席者を得ておりますが、依然として卒業年度によって人数の偏りがあり、幅広い層からの参加とは言えない状態です。こうした状況を改善すべく、名簿の整備、年度別幹事の確立、ホームページ、会報などの拡充を通してより多くの皆様の参加を得るよう活動しております。

ホームページには、平成20年の立ち上げ以来、延べ一七、〇〇〇名が訪れており、活動報告をはじめ随筆、旅行記等の自由投稿欄、関連イベントなどを紹介するトピックス欄も設けています。是非一度、アクセスしてみてください。(http://www.tokyo-soshokai.org)

また、平成24年度の講演は、児童劇団「大きな夢」代表の青砥洋氏(昭36年卒業演劇部)による演劇界の裏話を交えた大変興味深いお話をお伺いしました。その概要は、今年度の東京双松会会報(9月上旬発行)に掲載いたします。

そして、従来、講演は高校時代の部活をテーマの中心にしていまいりましたが、今後はより幅広い分野の話題を取り上げていく方針です。今年度は、永年、

双松会地区だより

近畿双松会

地区だより

近畿双松会 事務局長

松本 耕司(高16期)

本年度は当会の設立55周年の記念すべき年です。

昨年の総会では会則を全面改訂し、近畿在住の全卒業生を会員とすることとして、入会、退会の手続きを廃止しました。会費も名称を運営費に切り替え、有志の協力を仰ぐ形にしました。この新会則のもとで、55周年の年を、母校と郷土の発展を願う活動が将来にわたるごやかに続くよう、当会の一層の充実を図る一年にしたいと考えています。

活動骨子は以下のとおりです。奮ってご参加ください。

- 重点取り組み
①55周年記念事業の推進
②新会則のスムーズな運用
●55周年記念総会懇親会
・期日：12月8日(日)
午前11時～午後4時

会場：大阪市中央公会堂
記念講演：古瀬 誠氏(高16期) 山陰合同銀行会長
懇親会では郷土の物産品の大幅引き大会を計画(10月に詳細)案内

その他の行事

ゴルフ、文楽鑑賞、歴史ウォーキング、里山ハイキング、落語鑑賞などを予定。
来年3月には「55周年記念会報」を発行。

広島双松会

地区だより

広島双松会 幹事長

石原 通弘(高13期)

平成24年11月に第7回総会を双松会副会長勝部昌幸様及び北高校長河原一朗様、教頭足立芳樹様、教諭内藤永嗣様にご臨席賜り開催し、後述の活動計画等を決定しました。また、島根県広島事務所長石川厚志様より古事記千三百年にかかわるお話を賜り、総会に華を添えていただきました。

本年度は会の更なる活性化を図るため、役員会で対策を検討してまいります。

設立以来同級生や職域を通じて口コミで情報を伝達することとしていますが、十分な周知が出来ていません。会報をご覧いただいた方、事務局へご連絡いただければ喜びます。

一、今年の活動計画

今年の活動は恒例の総会・懇親会に、納涼親睦会一回、ゴルフコンペ二回程度開催して会員の親睦を深めます。

二、第8回総会・懇親会
日時 平成25年11月9日(土)
16時～19時

本年度の進路状況

進路指導部長 大屋 和彦

今年度のセンター試験における受験者数は、昨年から約一万人増加しましたが、国公立大への志願者総数は、前年から約五千人減り、志願倍率は前年の四・九一倍から、四・八四倍となりました。

国公立志願者減の主な原因と考えられるのは、センター試験の難化により、国公立大学への出願そのものを見送ったケースや、難関国立大や医学科の後期日程廃止により後期の志願者が減少したことが考えられます。特に後期については、受験したくとも、選択肢が限られるという現実が見取れます。例えば、2006年の前期志願者数に対する後期出願者の割合は87%であったのに対し、今年度の割合は73%となり、分離分割形式の入試へ移行してから最も低い数字となりました。

一方で、公立大の中期日程の志願者は前年比107%となりました。公立大は国立に比べ、科目数を減らして受験できる大学が多いため、一部では中期に限らず、前後期でも志願者の増加が見られます。センター試験難化の影響がここにも現れています。

学部や系統別の傾向としては「理高文低」「資格志向」の流れに大きな変化はなく、理系では工学系で志願者が増加、医療系の人気が高く、2010年以降人気だった教員養成系は今年度志願者減少となりました。人文・法・経済系は近年の減少傾向が続いています。

本校生徒の国公立大の合格者数は延べ197名。これは昨年よりも16名少ない数字です。前期の国立大の合格者数の減が最も顕著で、昨年に比べ30名の減となりました。逆に国公立大の中・後期の合格者は、全体では昨年よりも増加しています。

難関大学については、東京大学、京都大学、大阪大学の合格者数は計22名と健闘しましたが、難関大の総計は38名という結果にとどまりました。中国地方では、特に岡山大学や鳥取大学が厳しい結果となりました。また、国公立の医学部医学科の合格者数は、ほぼ例年並みの12名でした。

センターの難化を受けて、全国の生徒の志望動向も例年とはやや異なる様相を示しています。例えば、倍率からだけでは読み切れない、各大学の受験生徒の実際の学力層や、一部ブロック大、地方大学への受験生の流入等です。

しかし、様々な要因があったにせよ、我々は今回の受験結果

を謙虚に受け止め、生徒達に厳しい受験を乗り切る力が十分に備わっていたかどうかを検証しなければなりません。

受験は、生徒自身が将来の目標を達成するための最初の大きなステップであり、個々の生徒達も自分の志望に関して安易に妥協できるものではないと思います。しかし、目標に到達するために、当然それに見合う学力をつけなければなりません。今、確かな学力をつけるためには何が一番必要なのでしょう。

学校における学習指導は、学習指導要領の改訂や、それに伴う教育課程の変更。または受験制度の変更によって大きな影響を受けます。指導そのものの在り方や方法論も、そうした変更や時代の移り変わりによって変容を遂げてきています。

しかし、学校の学習において変わらぬことが一つあります。それは指導の中心は、あくまでも授業であることです。

生徒も、そして勿論教師も、授業という時間と空間を再考する時期に来ているのだと思います。

授業は毎日繰り返されます。大切なことは、その繰り返しの中で、ほんのちよっぴりでもいいから自分の中に何かを残し、それを積み上げることだと思います。そして、ゆっくりでもいいから歩みを止めないことです。

す。

これだけ価値観が多様化した今の社会で求められているのは、小手先の技術ではなく、様々な変化に対応できる「柔軟性」であり、またその変化に対応する力を身につけるために「常に学び続けること」です。

そんな力が社会に出てから突然身につくものでしょうか。私は授業や部活動をはじめとする北高での生活のあらゆる場面にその力を培う機会がある、と信じています。

北高を今年巣立った生徒諸君が、生涯を通して研鑽を積み、社会に貢献できる人材として大きく成長してくれることを願っています。

進路状況

平成25年度入試学校種別合格者延べ数及び就職者数 (平成25年4月集計)

卒業生	平成23年3月			平成24年3月			平成25年3月		
	現	卒	計	現	卒	計	現	卒	計
国立大学	151	40	191	145	40	185	127	39	166
公立大学	35	6	41	22	6	28	25	6	31
私立大学	163	62	225	233	57	290	179	106	285
短期大学	58	0	58	36	1	37	45	2	47
専門学校等	12	0	12	19	0	19	25		25
就職	0	0	0	1	0	1	2		2
合計	419	108	527	456	104	560	403	153	556
クラス数	8クラス			8クラス			8クラス		

編集後記

例年を上回ると言われる猛暑の中、皆様方お元気でお過ごしでしょうか。

今回の会報で、これまでと若干異なっている点がございませぬ。例年、巻頭言「青春グラフィティ」に還暦同窓会の報告をいただいておりますが、今回順番の23期の皆さんの同窓会開催時期と原稿締切の都合がうまく合いませんでした。今年、松高1期の皆さんが「隠居広場」と題して北高に集ってくださいましたので、この皆さんにご寄稿いただくことにしました。とても楽しくも年輪の感じられる記事をお楽しみください。ホームページもお持ちで、北高のホームページの「外郭団体」から「双会」のページへ飛ぶことができますのでこちらもぜひご覧ください。

また、特集は通信制の閉課程式の写真特集としました。通信制双松会の野津会長さまからいただいたご投稿とともに、通信制への思いを馳せていただけるものと思います。

